

*Amadeus Chorus*  
4th CONCERT  
'83.25. September  
Tokyo Cathedral

アマデウス合唱団 第4回定期演奏会

*Wolfgang Amadei Mozart*

## ■演奏者プロフィール

### 黒岩 英臣 <指揮>

Hideomi Kuroiwa

1960年、桐朋学園大学指揮科入学、故斎藤秀雄氏に師事。1964年、同大学弦楽オーケストラのアメリカ公演に指揮者として同行、ニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコ等で指揮した。1965年同大学卒業、NHKテレビ「今年のホープ」に出演。同年修道士となり、1975年まで修道生活を送った。

1976年より再び音楽に専念。札幌交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団の定期演奏会をはじめ、東京の主要オーケストラとの共演も数多く行っており、今後の活躍が期待されている。1981年9月より九州交響楽団常任指揮者を務める。

### 原田 泉 <ソプラノ>

Izumi Harada

東京芸術大学卒業。バッハのカンタータ、ベルゴレージの宗教曲、シューベルトのミサ、ベートーヴェンの第九など、様々なコンサートにソリストとして出演している。オペラでは、プッチニの「ボエーム」、ベルゴレージの「奥様になった女中」に出演している。本年11月、12月に、あるて室内管弦楽団のモーツァルト・フェスティバルに出演が決まっている。芸大大学院独唱科在学中。

### 阪口 直子 <アルト>

Nuoko Sakaguchi

武蔵野音楽大学卒業。ベートーヴェンの第九、ヴェルディのレクイエム、モーツァルトの戴冠ミサなど様々なコンサートにソリストとして出演している。オペラでは、武蔵野音楽大学の公演、モーツァルトの「コシ・ファン・トゥッテ」に出演している。本年11月には、芸大定期演奏会のバッハ短調ミサに、また同月に、あるて室内管弦楽団のモーツァルトフェスティバルに出演が決まっている。芸大大学院独唱科在学中。

### 佐藤 淳一 <テノール>

Junichi Sato

東京芸術大学卒業。バッハのカンタータ等を中心に、数多くの宗教曲のコンサートにソリストとして出演している。オペラでは、モーツァルトの「フィガロの結婚」創作オペラ「女の城」等に出演している。芸大大学院独唱科在学中。

### 山崎 岩男 <バリトン>

Iwao Yamazaki

東京芸術大学卒業、同大学院オペラ科修了。バッハのカンタータ、ベルゴレージのサルヴェレジーナ、シューベルトのミサ、ハイドンのオラトリオ、ベートーヴェンの第九など、様々なコンサートにソリストとして出演している。オペラでは芸大定期公演のロシーニ「試金石」、「ボエーム」、「奥様になった女中」等に出演している。また本年11月12日にはあるて室内管弦楽団のモーツァルトフェスティバルに出演が決まっている。

### 小林 英之 <オルガン>

Hideyuki Kobayashi

東京芸術大学でオルガンを秋元道雄、広野嗣雄の各氏に師事し、1978年に同大学卒業。その後西ドイツ・フランクフルト国立音楽大学でオルガンを、エドガー・クラップ氏に学ぶ。1981年同大学卒業。1982年東京芸術大学大学院を卒業。

### 東京アマデウス管弦楽団

Amadeus Orchester Tokio

1973年、指揮者玉置勝彦氏の門下生とその友人達で結成された。これまでモーツァルト、シューベルト、ブラームス、ブルックナーの交響曲等を中心として、年2回の定期演奏会のほか、協奏曲や合唱曲の伴奏、音楽教室を対象とした演奏など、多彩な活動を行なっている。ほかにもシンガポールの演奏旅行、静岡県オペラ協会の「椿姫」などで好評を呼んだ。昨年10月31日に第20回記念として、ベートーヴェンの交響曲第9番を演奏している。

### 鈴木 優 <合唱指導>

Masaru Suzuki

1982年東京芸術大学を卒業し、東京混声合唱団に入団する。1981年より、当合唱団の合唱指導を務めている。

# PART I

---

## モーツァルト:ミサ・ブレヴィス(雀のミサ)

W.A. Mozart: *Missa Brevis (Spatzen-Messe) K220*

**KYRIE**

**GLORIA**

**CREDO**

**SANCTUS**

**BENEDICTUS**

**AGNUS DEI**

ミサ・ブレヴィスK.220は、1775年モーツァルト19歳の時の作品です。モーツァルトは少年期の多くの年月を音楽体験を積むための旅行に費していますが、20才前後の数年は小旅行を除いて故郷ザルツブルクで社交音楽や教会音楽の作曲に専念しました。このミサ曲K.220もこうした比較的静穏な時期の作品で、ミサ・ブレヴィス(小ミサ曲)と称される規模ながら、若々しく明るい雰囲気を持っています。

編成は、ソプラノ・アルト・テノール・バスの各独唱と合唱、トランペット2部、ティンパニ、ヴァイオリン2部、チェロ、バス、オルガンで、ミサ通常文による6曲から成り立っています。また、この曲は「雀のミサ」というニックネームを持っていますが、これはサンクトゥスのヴァイオリン前打音が雀のさえずりのように聞こえるところから命名されたものと言われています。

# PART II

---

## ビクトリア:聖金曜日のためのレスポンスoriumより

Tomas Luis de Victoria: *Tenebrae Responsories*

**TAMQUAM AD LATRONEM**

**TENEBRAE FACTAE SUNT**

**ANIMAM MEAM DILECTAM**

**TRADIDERUNT ME**

**CALIGAVERUNT OCULI MEI**

トマス・ルイス・デ・ビクトリアは、16世紀のスペインで活躍した宗教音楽家です。「聖週間のレスポンスorium」はキリストの最期を悼むために作曲された無伴奏の合唱曲ですが、本日はこのなかから「聖金曜日のレスポンスorium」をとりあげます。

今日に至るまで復活祭やクリスマスが毎年行なわれてきたように、聖金曜日(キリスト磔刑の日)も信徒にとって重要な記念の日でした。教会ではキリストの殉難を悼んで典礼が行なわれましたが、その時の聖書の朗読に対して信徒が悔悟の念をもって応える聖歌が「レスポンスorium」と呼ばれるものです。敬虔なクリスチャンであったビクトリアの手になるレスポンスoriumは、静かながら深い情熱がこめられており、その美しく内省的な旋律はおのずと私たちの心を打ちます。

テキストは、旧約・新約聖書よりの抜粋または要約が用いられています。「神よ、なぜ私を見捨て給うのか」という十字架上のイエスの言葉をも含めて、聖金曜日の事跡あるいはイエスの心情を語る6曲により構成されています。(本ステージでは第5曲を省略いたします。)

# PART III

## モーツァルト：戴冠ミサ

W.A. Mozart: *Krönungs Messe* K.317

**KYRIE**

**GLORIA**

**CREDO**

**SANCTUS**

**BENEDICTUS**

**AGNUS DEI**

「戴冠ミサ」が作曲された1779年、23才のモーツァルトは、ザルツブルク大司教宮廷に仕えていました。そのため教会作品を作曲する機会が多く、20曲近いミサをはじめ、彼の教会作品の大部分がこの時期に書かれています。「戴冠ミサ」はこのなかでもとりわけよく知られている作品でしょう。しかし、なぜこのミサ曲K.317が古くから「戴冠ミサ」と呼び習わされているのか、はっきりした由来が証明されないまま今日に至っています。

一説には、ザルツブルク北郊のマリア・プライン教会の聖母マリア像の戴冠（1751年）を記念して作曲されたと言われていますが、作品完成が演奏予定日より早すぎることで、曲の規模が大きすぎるなどから、今日では否定的にみられています。また一方では、このミサはザルツブルク大聖堂の1779年の復活祭式典のために書かれたとの考証があります。この説によると、作品完成時から「戴冠」と呼ばれていたわけではなく、約10年後の1790年、レオポルト2世の戴冠を祝ってウィーンで行なわれた記念ミサに「ミサ・ソレムニス」K.337とともに演奏されたためとされています。

いずれにせよ、この「戴冠ミサ」はその名の通り堂々とした力強さに溢れていると言えるでしょう。モーツァルトがそれまでに作曲してきたミサ曲に比べると、構成の堅実さ、声楽の旋律の美しさがきわだっており、彼がマンハイムやパリへの旅行によって音楽家として大きく成長したことを伺わせます。

編成は、ソプラノ・アルト・テノール・バスの独唱と合唱、ヴァイオリン2部、チェロ、バス、オルガンから成り、慣例通りミサ通常文の6曲で構成されています。なお、アニュス・デイのソプラノ独唱部分が「フィガロの結婚」の伯爵夫人のアリアに似ていることはよく知られています。

# ■アマデウス合唱団



1981 February Mozart : REQUIEM

1981 November Händel : MESSIAH

1982 November Fauré : REQUIEM

「自分達の手でモーツァルトのレクイエムを」と集まったのが40名、こうしてアマデウス合唱団が誕生し、'80年4月発足以来4年目を迎えました。右も左もわからずに突っ走り、初舞台は翌年2月15日、上野石橋メモリアルホールにて、念願のモーツァルト「レクイエム」。同年11月1日、中央会館大ホールにて、ヘンデル「メサイア」。昨年11月21日、東京カテドラル聖マリア大講堂にて、フォーレ「レクイエム」と3回の演奏会を経て、今日に至っております。過去の演奏会では、未熟ながらも熱気あふれる演奏と評されました。以来一年余、団員一同「未熟ながらも」という甘えを排し、音楽への情熱に裏付けられた「熱気」をクールに燃え立たせ、日々の研鑽に励み、本日を迎えることになりました。

現在団員は60名。16才の高校生から70才の円熟ミセスまで、出身地も北海道から九州まで、そして様々な職業etc. バラエティーに富んだ仲間が、週一回の練習、月一回の日曜練習、さらに年2回の合宿を通して、より良い音楽を、そして私達アマデウスならではの味を、と練習に励んでおります。当団の歴史はまだ始まったばかりで、取り組むべき課題は山ほど、一方、「未熟ながら」の甘えもそろそろ通用しない、悩み多き思春期の入口が見えてきたところです。しかし、発足当時のチャレンジ精神を忘れることなく、「ゆるりと猛進、の心意気、大きく成長していきたい」と思っております。

## SOPRANO

石橋 真澄 森松 祐子  
市瀬由紀子 山下 洋子  
江川 智子  
大久保ルミ子  
窪田 玲子  
倉田 純子  
倉田千代美  
佐々木淳子  
鈴木 順子  
鈴木 直子  
鈴木 靖子  
滝本きさ子  
武田 真穂  
谷口真由美  
徳光 孝美  
塚本 和子  
福島喜久子  
三井恵美子

## ALTO

東 利栄  
石川 満美  
伊藤 正子  
井上やす子  
大岩 幸子  
加藤 優子  
小林 志保  
佐藤 敏子  
地引由佳里  
鈴木 和子  
高橋くるみ  
高橋 早苗  
高橋 理  
武田 州代  
鶴田 敏子  
中村 千春  
矢島美知子  
山崎 孝子

## TENOR

伊原 宏  
入田 丈司  
大久保 訓  
大野 康昭  
小島 文男  
小林 典夫  
近藤 道雄  
鈴木 俊二  
関 実  
釣井 博之  
野口 碩  
三浦 恭裕

## BASS

新井 敏夫  
家田 信吾  
伊藤 通  
菅原 定三  
橋本 克久  
樋口 正文  
山腰 正等  
山崎 大介  
山谷 浩之  
吉浦 正憲

## 団員募集

### モーツァルト レクイエム

当合唱団では第5回定演('84秋)に向けて、新団員募集中。練習は毎週水曜日6時半より9時まで。お気軽においでください。

問合せ03-941-2540大久保

*Amadeus Chorus*

*Amadeus Chorus*

4th Concert '83 September Tokyo Cathedral